

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
東京電子専門学校	昭和51年10月1日	新休 能士	〒170-8418 東京都豊島区東池袋3-6-1 (電話) 03-3982-3131				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人電波学園	昭和30年9月27日	山口 広泰	〒170-8418 東京都豊島区東池袋3-6-1 (電話) 03-3982-3131				
目的	検体検査と呼ばれる血液や尿の化学検査、病理学検査、免疫検査学、病原微生物検査や超音波検査・心電図・脳波等の生理検査を行うための資格取得。						
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
医療	医療専門課程	臨床検査学科		平成6年文部省告示第84号	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	3150	1755	0	1395	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
160人	165人	9人	18人	27人			
学期制度	■前学期:4月1日～9月30日 ■後学期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 優(A):100～80点、良(B):79～70点、可(C):69～60点			
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月20日～8月31日 ■冬季:12月20日～1月7日 ■春季:3月20日～4月10日		卒業・進級条件	所定の科目単位を取得。および各学年内において所定の授業総時間数の2/3以上の出席。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 本人および保護者に対し面接・電話・書面にて連絡		課外活動	■課外活動の種類 なし ■サークル活動: 無			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 国立病院、大学病院、クリニック、検査センター等 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他 (平成 28 年度卒業者に関する平成29年5月1日 時点の情報)		主な資格・検定等	臨床検査技師の国家試験受験資格 甲種危険物取扱者試験受験資格 上級・中級バイオ技術者認定 第二種ME技術実力検定			
中途退学の現状	■中途退学者 7名 ■中退率 6.1% 平成28年4月1日 在学者 115名 (平成28年4月1日 入学者を含む) 平成29年3月31日 在学者 108名 (平成29年3月31日 卒業者をを含む) ■中途退学の主な理由 進路変更による方向転換 ■中退防止のための取組 他学科(情報処理科や電気・電子技術科)への転科を勧めている						
ホームページ	URL: http://www.tokyo-ec.ac.jp/index.html						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したもとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本校の教育目標は、関連業界の協力を得ながら、最先端技術・専門知識・技能を基礎から一貫した実力養成によって実務的な技術のスペシャリストを育成するとともに、関連分野の国家資格の合格ならびに関連分野の企業・院などに学生を有能な技術者として送り出すことである。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

※当委員会は診療放射線学科、臨床検査学科、臨床工学科の3科共通の委員会です。

名前	所属
吉田 隆	株式会社サンリツ 取締役
谷道 清隆	社会医療法人 河北医療財団 河北総合病院 内視鏡室 技師長
松金 隆夫	一般社団法人 千葉県臨床工学技師会 副会長
田中 美次	株式会社 ホリスティックホールディングス 代表取締役
荒川 静司	医療法人社団東光団 戸田中央総合病院 臨床工学科 科長
伴場 次郎	東京電子専門学校 副校長
塚田 敏彦	東京電子専門学校 臨床検査学科 学部長 副校長
尼崎 朝子	東京電子専門学校 臨床工学科学部長
山口 勝広	東京電子専門学校 学園本部 副本部長
山口 真弘	東京電子専門学校 学園本部 総務部副部長

(開催日時)

第1回 平成28年3月18日 15:30~17:00

第2回 平成28年10月14日 16:00~17:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

学内で学んだ知識・技術が臨床の場においてどのように実践されているかを学び、将来における実践臨床検査技師としての資質を養う

科目名	科目概要	連携企業等
病院実習	生化学・血液・一般検査／生理機能検査／病理・細胞診検査／免疫・輸血検査／微生物検査	実習計画に基づく主要な検査室を有し、各検査室あたり学生1~2名に対し、実務経験5年以上の専任技師が指導者として教育する体制が可能な施設を選定している。

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

- ・民間企業での研修(派遣型)を通して、民間企業の現状を知り、必要とされる人材等についての動向を得るなど、外部で無いと分からない、体感できないことに対して積極的に取り組むよう努めている。
- ・外部の技術セミナー等に参加をし、現在の技術動向の習得に努めている。
- ・外部の所謂教え方に関するセミナーや研修会に参加をし、授業の質の向上、学生が頼興味を持てる授業の実施が出来るよう研鑽をしている。
- ・必要に応じ、企業から講師を招いて最新技術や需要の高い技術に関連するセミナーを開催している。
- ・学期ごとに学生による「授業アンケート」を実施し、校長室より個々の教員に結果を示した上で改善点を指摘し、よりよい授業となるよう改良・改善に努めさせている。
- ・「公開授業」という形で、評価の高かった教員の授業を参観させ、個々の授業の参考とするようにしている。なお、公開授業は学内の教員だけではなく、非常勤も対象としており、その中には企業から派遣されている講師なども含まれる。
- ・校内規定である「研修等に係る諸規定」に基づき、計画的に教員の研修を行っている。具体的には、主な研修期間である長期休暇期間の前に各教員は研修計画を校長室に提出し、研修先や研修期間、その予想効果を審査している。また、長期休暇期間後は研修結果の提出を必須としている。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

※当委員会は全学科共通の学校で1つの委員会です

平成29年4月1日現在

名 前	所 属
岡本 真梨子	株式会社エスキャリア 執行役員
喜多村 貞一	エーアイテクノロジー株式会社 代表取締役 本校卒業生
松金 隆夫	(一社)千葉県臨床工学技士会 副会長 臨床工学技士(国家資格) 診療放射線技師(国家資格)
吉田 隆	株式会社サンリツ 取締役 臨床検査技師(国家資格)

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.tokyo-ec.ac.jp/campus/data/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.tokyo-ec.ac.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程臨床検査学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			基礎統計学	集合、確率、統計、推測統計など、検査技術の基礎になる数理統計の基礎から応用までを学習する	1前	30	2	○			○		○		
○			一般化学	一般化学（物理化学、無機化学、分析化学）の概要を学習する	1前	30	2	○			○		○		
○			化学実習	有機・無機定性分析、定量分析、化学反応速度と平衡、機器分析法の修得	1前	30	1			○	○		○		
○			分子生物学	細胞、細胞分裂、生殖と発生、遺伝と進化、老化と死などの分子生物学の基礎を学習する	1前	30	2	○			○		○		
○			分子生物学実習	動・植物の細胞分裂、染色体の観察、DNAの抽出と分析、細胞培養などの最新技術の修得	1前	30	1			○	○		○		
○			医学英語	英語論文・医学関連英語の基礎を学習する	2前	30	2	○			○			○	
○			人文科学（心理学）	社会人としての情操を高めることを目標とし、心理学を学習する	1後	30	2	○			○			○	
○			社会科学（医療倫理）	社会人としての見識を広めることを目標とし、倫理学を学習する	1前	30	2	○			○			○	
○			英語	日常英語の基礎を学習する	1通	60	4	○			○				○
○			保健	疾病予防、健康保持、並びに健康増進について学習する	2前	15	1	○			○	△	○		
○			体育	健全な心身を育てる実技について学習する	2前	30	1			○		○	○		

○		生理学	人体の生理学的機能、その基礎的内容について学習する 1. 動物性機能 2. 植物性機能	1 前	60	2	○			○		○		
○		生理学実習	人体、または動物の生理学的機能（循環、呼吸、筋、神経、感覚等）の機器での測定、および記録の修得	1 後	30	1			○	○		○		
○		病理学	人体各器官の主な疾患の原因、及び変化を中心に教授し、病理組織細胞学を学ぶのに必要な基礎的内容を学習する	1 後	60	2	○			○				○
○		病理学実習	病理組織検査に必要な基本的技術の修得 1. 固定 2. 脱灰 3. 包埋 4. 薄切 5. 染色 6. 検鏡 7. その他	2 後	30	1			○	○		○		
○		生化学	生体物質の構造と代謝、検査学に必要な生化学の基礎的事項について学習する	1 後	60	2	○			○		○		
○		生化学実習	生体からの生体物質（糖、脂質、タンパク質、核酸等）の抽出、分離、定性分析の修得	1 後	30	1			○	○		○		
○		解剖組織学	人体の各器官系の形態構造の名称と、細胞組織の機能について学習する	1 前	30	1	○			○		○		
○		解剖組織学実習	人体、または人体模型による各部の観察、正常組織の顕微鏡による観察の修得	1 後	30	1			○	○		○		
○		医学概論	医学の発達と検査技術の発展の歴史、医療従事者の倫理等を学習する	1 前	15	1	○			○				○
○		臨床医学総論	各種疾患の解説、患者の心理・受診行動、医療と社会集団等、臨床医学の包括的内容を学習する	1 通	60	2	○			○		○		
○		公衆衛生学	健康の保持、予防医学の重要性の認識、公衆衛生分野の検査を学習する	2 前	30	1	○			○		○		
○		公衆衛生学実習	公衆衛生分野（水質、大気、騒音等）の実習、および衛生行政・産業衛生・環境衛生等の関係施設の見学を行う	2 前	30	1			○	△	○	○		
○		医療福祉概論	保健・医療・福祉の理念、制度について学び、医療従事者の一員として、患者の支援のあり方を学習する	2 後	30	1	○			○		○		
○		チーム医療総論	現在の医療は医療従事者によるチーム医療が不可欠で、臨床現場の講師を招いて学習する	1 前	30	1	○			○		△	○	

○		医用工学	検査領域に使われる、検査機器における理工学的計測技術を学習する	1前	30	1	○			○		○		
○		医用工学実習	医学に利用されている医用電子機器を理解するための電子工学の基礎実習を行う	1後	30	1			○	○		○		
○		情報科学	情報処理の概念を基礎から学び、特に医療への応用の実際について学習する	1後	30	1	○			○				○
○		コンピュータ実習	各種アプリケーションソフト（エクセル・ワード・パワーポイント等）の使い方を学習する	1前	45	1			○	○		○		
○		臨床検査医学総論	各種疾患の診断における検査の目的、意義、および解釈についてを学習する	2通	60	2	○			○				○
○		臨床検査総論	臨床検査技師の役割と使命、臨床検査における心構えと一般的注意、採血法、検体の取扱い方、一般臨床検査を学習する	1通	60	2	○			○				○
○		臨床検査総論実習	検体の採取、取扱い方、および採血法、一般臨床検査の手技、および技術の修得	1後	30	1			○	○				○
○		基礎医学実習	基礎専門科目（検体検査、生理検査、微生物、形態学）について臨床検査の入門として実習を行う	1前	60	2			○	○		○		
○		臨床血液検査学	血液学総論、医療機関で業務を行う上に必要な、血液学的検査を学習する	2前	60	2	○			○		○		
○		臨床血液検査学実習	血液学的検査の手技、技術の修得	2後	60	2			○	○		○		
○		病理組織細胞学	医療機関等における病理学的検査を学習する	2前	30	1	○			○				○
○		病理組織細胞学実習	病理組織、および細胞検査の手技、技術の修得を行う（病理解剖の介助を含む）	2後	60	2			○	○		△		○
○		医動物学	人体寄生虫の概要、寄生虫検査について学習する	1後	15	1	○			○				○
○		医動物学実習	人体を中心とした寄生虫検査の手技、技術の修得 1. 検体の取扱い方 2. 蠕虫類の検査 3. 原虫類の検査 4. その他	1後	30	1			○	○				○

○		臨床化学	検査領域における化学分析技術（分離分析、超微量分析、自動分析、薬物分析、毒物・劇物の検査等）を学習する	2 通	60	2	○			○		○		
○		臨床化学実習	臨床化学分析の手技、技術の修得	2 後	60	2			○	○		○		
○		遺伝子検査学	遺伝子検査の倫理、分析技術、診断技術、評価等臨床検査への応用の実際を学習する	2 後	30	1	○			○		○		
○		バイオ技術学	バイオテクノロジーに適応しうる中級バイオ技術者認定試験の合格を目指す	1 後	30	1	○			○		○		
○		輸血検査学	輸血の概念（輸血療法、輸血副作用）、輸血検査法、輸血検査法の評価、および移植の現状等について学習する	2 後	30	1	○			○		○		
○		臨床検査総合演習（1）	基礎専門科目（生理学、生化学、病理学、解剖組織学等）について、医学的知識の理解を深めるため、演習形式の学習を行う	3 前	90	3	○			○		○		
○		臨床微生物検査学	臨床微生物（病原微生物検査）を学習する	1 通	60	2	○			○		○		
○		臨床微生物検査学実習	臨床微生物検査、化学療法剤、感受性検査法の手技、技術の修得	2 前	90	3			○	○		△	○	
○		臨床免疫検査学	免疫学の基礎、および臨床免疫検査学的領域、並びに血清学的検査の内容、輸血検査業務の実際を学習する	2 前	60	2	○			○			○	
○		臨床免疫検査学実習	臨床免疫学・血清学的検査の手技、技術の修得	2 後	60	2			○	○		△	○	
○		臨床治験総論	新たに新薬の治験事業にも臨床検査技師が加わったので治験コーディネーターについても学習する	3 前	15	1	○			○			○	
○		生理機能検査学Ⅰ	臨床生理検査（電気生理学的検査）の理論と、その実際について学習する	1 後	30	1	○			○		○		
○		生理機能検査学Ⅱ	臨床生理検査（ガス代謝検査）の理論と、その実際について学習する	2 前	30	1	○			○		○		
○		生理機能検査学Ⅲ	臨床生理検査（画像診断検査）の理論と、その実際について学習する	2 前	30	1	○			○			○	

○		生理機能検査学実習	臨床生理学的検査の手技、技術の修得	2通	90	3				○				○	○
○		内視鏡総論	内視鏡検査や治療は、現在の医療ではかかせない分野に発展した。第1種内視鏡技師認定も含めて学習する	3後	15	1	○			○					○
○		検査管理学	臨床検査の検体受付から報告までのシステムとその運用、検査情報の活用のされ方等、臨床検査部門の管理・運営・役割等について総合的に学習する	2後	30	1	○			○				○	
○		関係法規	医療全般の法規、臨床検査技師、衛生検査技師として必要な法令等の概説について学習する	2後	15	1	○			○				○	
○		法医学	犯罪捜査や裁判などの法の適用過程で必要とされる医学的事項を、解剖の復習も含めて、臨床検査を応用する社会医学を楽しく学習する	3後	15	1	○			○					○
○		予防医学総論	人間をとりまく自然、社会環境因子と健康の関連を探求し、疾病の予防・早期発見および健康の維持増進を図る科学領域を学習する	3後	15	1	○			○					○
○		臨床検査総合演習(2)	臨床専門科目(臨床化学、血液検査学、病理組織細胞学、微生物検査学、免疫検査学、生理機能検査学等)の、医学的知識の理解を深めるため、演習形式の学習を行う	3後	270	9	○			○				○	
○		医療安全管理学	検体採取に必要な知識・技術を学習する。皮膚表在組織、鼻腔液・咽頭拭い液、鼻腔液吸引液、便採取等	3後	15	1	○			○				○	
○		特別研究	各研究テーマについて学術研究を行い、その成果を発表する	3後	180	6				○	○			○	
○		病院実習	学内で学んだ知識と技術を実際の医療現場で体験し、患者様への対応を修得する	3前	360	8				○				○	○
合計				62科目	3,150単位時間(113単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1. 各科目について2/3以上の出席および60点以上の成績	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。